

「ONE-TEAM」となって地域力を生かし輝かしいあつまを目指す

厚真町長 宮坂 尚市朗

2020年の幕開けを迎えるにあたり、町民の皆さまに謹んでごあいさつを申し上げます。

旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解ご協力を賜り、改めて心より感謝申し上げます。

胆振東部3町に未曾有の被害をもたらした北海道胆振東部地震からすでに1年4か月が経過しました。この間、全国・全道の行政機関などから多大なご協力と全国各地から物心両面にわたり温かなご支援を賜りました。また、昨年9月7日に北海道胆振東部地震厚真町追悼式を開催し、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、併せて厚真町再興に向けて決意を新たにしたところでもあります。

甚大な損害を被りながら、これまで懸命に日常生活やなりわいの復旧に努めてこられた町民の皆さまには、改めて心からの敬意と感謝を申し上げます。さまざまな苦難を乗り越え、今年の春には、農地に種や苗が植えられ、やがて緑色から黄金色へと変わる景色に、町民の皆さまも心癒され、励まされたことと思います。

町内では、災害復旧に向けた国の直轄砂防応急工事、勇払東部国営かんがい排水事業復旧工事、北海道の治山・砂防工事、農地堆積土砂の撤去、厚真町の災害廃棄物処理、統合浄水場その他公共土木工事が急ピッチで進んでいます。

一方で、まだ多くの方が仮設住宅や被災住宅でご不便な生活を余儀なくされており、不安な日々を過ごしていることも被災地としての現実です。一刻も早く、恒久的住宅対策や公共的施設の復旧と必要な宅地の耐震化を進め、心のケアにも取り組んで行かなければなりません。昨年の11月に策定した厚真町復旧・復興計画第1期は被災者本位の土地利用計画や災害復旧関連事業の取り組みが中心となりました。本年は、当該計画をもとに災害公営住宅や公営住宅などの建設と社会福祉施設の移築促進に全力を挙げて取り組んでまいりますとともに、PTSD対策も優先課題として必要な対策を講じてまいります。この計画は全体の基本方針として「住まい・暮らしの再建」、「なりわい（仕事）の再生」、「災害に強いまちづくり」を掲げており、今後は住民参加の下、地域再生計画を中心とした第2期、復興フェーズの重点事項を中心とした第3期計画策定作業を通じて本町の復旧、復興の歩みを加速してまいります。

昨年も、全国各地で台風第15号、台風第19号により、多くの犠牲者を出し、多くの家屋が浸水するなど甚大な被害が発生しました。改めて被災さ

れた方に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。私たちは、自然の猛威にあらがうすべを持ちませんが、防災、減災という視点や復元力を高める対策に引き続き粘り強く取り組んでいかねばなりません。そのキーワードは地域力であり、住民主体であるコミュニティーの充実は、安全安心という観点からも大変重要であると考えています。

昨年、日本国内で各種のスポーツ世界大会が開催され、ラグビー日本代表チームの目覚ましい活躍は、私たちに勇気と希望を与えてくれました。本年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、北海道においてもマラソン、競歩の競技が札幌市で開催されます。また、6月には厚真町を含む胆振東部3町で聖火リレーが実施されることになっています。

令和という新しい時代に、新しいドラマが生まれ、新しい歴史がつづられていきます。

北海道胆振東部地震という悲しいできごとを体験した厚真町ですが、たくさんのお応援と町民が“ONE-TEAM”となって乗り越え、復旧復興のページをつづっていくことが、先人から令和を生きる私たちに託されたバトンなのだと思います。先達者が築き上げてきた郷土あつまを再び輝かせ、町民が心からの笑顔を再び取り戻す日まで、遠く険しい道のりではありますが、フロンティアスピリッツを心に一步一步着実に歩みを進めてまいりましょう。重ねて町民の皆さまのご理解とお力添えを賜りますようお願いいたします。結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。